

# 報 告 書

平成 2 2 年 3 月 定 例 会 に お け る 議 会 報 告 会				
開 催 日 時	平成 2 2 年 5 月 1 9 日 ( 水 ) PM 7 時 0 0 分 ~ PM 9 時 0 0 分			
開 催 場 所	芝田公民館			
出 席 議 員	出口議長	佐野議員	池淵議員	天羽議員
	司 会 者	高木副議長		記録・報告者 武田議員
	設営・運営者	安平議員		
参 加 人 数	2 5 名			
主 要 提 言 等	別紙のとおり			

小松島市議会議長 様

平成22年5月24日

議会報告会実施要綱第 1 0 条第 1 項の規定により提出します。

高木 幸次 印

安平 剛之 印

武田 清 印

## 議会報告会（芝田公民館）別紙

H22.5.19

市議会広報をお金をかけて発行しているが、一方通行になっている。フィードバックすべきでは。

これだけの繰越欠損がありながら、5年間で解消できるのか。ただ職員を減らすのではなく、議員も真摯に判断すべきだ。議員定数については15人で提案したい。

議員定数については、議員の仕事量を勘案し考えるべきである。

議員の定数は17名でよい。市長と同じように、市民のことを考え、小松島市をよりよくなっていく方向にもっていくことが大きな仕事である。

報酬でたとえて、今これだけはしていかなければならないという仕事を50%と仮定すれば、残りの50%は小松島市をよくするために勉強し、トライしていく方法を考えればよい。

集中改革プランでは職員の削減は66名となっているが、「広報こまつしま」では70名で掲載されていることについて。

5年先の小松島市の姿がわからない。5億8,000万円の赤字を解消しようということはわかる。議会で市長に言ってもらい、市長あたりがもっとリーダーシップをとるべきだ。

協議会から推薦し、地域から議員を出せばよい。

政務調査費は適切に処理されているのか。

小松島市の施設は一番中途半端である（ミリカホール……音響施設、健康器具。小松島球場……公式戦に使用できない）。もう少し充実したものにすべきだ。

議員の数を減らすことを考えるよりも、財源をふやす方法を考えてもらいたい。

工場誘致や住宅の土地を確保するなど、税収が入ってくるような方向づけを持ち、議員もまだまだ増やし、そのことを考えて仕事をしてもらいたい。

国民健康保険税が 9.9%引き上げられたが、全国平均よりもどうなのかをよく考えてほしい。

田野町であれば北野エンジニアの所。せっかくあれだけの工場があるので、道路を広げ、工場誘致をするなりし、できるだけ市の財源を増やすような方法を考えてもらいたい。

国保税は 100 %集金ができているのか。

なぜ 1 割引き上げるのか。議員に言っても仕方がないが、考え方が我々は納得できない。

病院代がものすごく高くなっている。行政も入っている人に指導をしなければならぬ。

通園距離を考え、5 年先にはこうしますということ。答えは要らない。

5 年間で何とか赤字を解消しようということであるが、当初からやっていることが生ぬるい。議員の手で思い切って切り込んで、出先や配置されている職員など、要らない所は統合、廃止する方向で取り組むべき。

政務調査費も有効に使い、どんどん先進国に行き、本当の意味の赤字団体に陥らない所などを研究してほしい。答えは要らない。